

コミッサオン・チ・フレンチおよび背景装置(小出車)「私は聖なる衣を身に着けて、聖人の中の聖人の世界に浸りたい」

振付 マルシオ・モウラ

俳優のミウトン・ゴンサウヴェスが架空のカンドンブレ団体のババロリシャー(オリシャー神に祈る祭事を取り仕切る神官)として、聖人の子供たちを伴って登場する。このパレードでの振り付けは、アフリカ出身者の宗教儀式であるイジェシャーとバイーア起源のサンバ・チ・ホーダとを混淆したもので、これをもってポルテラとバイーアとの連携を示す！さあ、道よ、開きたまえ！アシェーの力を！

第1部 「守護聖人——ポルテラはバイーアにたどり着く。守護聖人の保護のもと、女戦士クララ・ヌネスに導かれて。」

メストリ・サーラとポルタ・バンデイラ(第1ペア)の随行員「聖なる太鼓が私のために鳴り響く」

オガン(生贄の儀式的担当)はアタバッキ(コンガ)を用いて、礼拝場の祝祭を盛り上げ、オリシャーの神々を呼び寄せ、踊りに誘う。メストリ・サーラとポルタ・バンデイラの随行員である彼らの役目もこれと同じものである。

メストリ・サーラとポルタ・バンデイラ(第1ペア)

ホジェーリオ・ドルネーリスとルシーニャ・ノーブレ

「ポルテラの青と白のマントに栄えあれ！」

リオデジャネイロの守護聖人である聖セバスチアオンとポルテラの守護聖人であるアパレシーダの聖母が、オショシとオシュンとに融合し、今回サブカイで披露されるポルテラのバイーア巡礼に祝福を与える。オシュンはまた、女戦士クララ・ヌネスを合わせて演じることについてイアンサンに許可を求める。

第1アーラ「穏やかな目で子らをご覧あれ」

ポルテラは守護聖人であるアパレシーダの聖母の庇護のもと、バイーアに向けて歩みを進める。

第1トリペー(3脚の小出車)「オープニング——愛の大聖遺物」

ポルテラにとって鷹は一種の守り神であり、応援者によって大いに敬われている。今回のオープニングの小出車は、鷹を守る顕示台である。

第2アーラ (ヴェーリャ・グワルダのギャラリー／警護者を含む)「衛兵」

守護聖人である聖セバスチアオンがバイーアに向かう道中のポルテラを祝福する。

第2トリペー(3脚の小出車)「我が心の楽団を指揮するのはオシヨシ」

狩りと豊穡の神オシヨシがポルテーラの守護神として、バテリアを庇護する。バイーアで最も有名な芸術家のひとりであるオズムンド・テイシェイラ作の像のレプリカ。

第2部 「浄化の祝祭——信心深きものは徒歩で行く」

第3アーラ「洗礼の聖水」

バイーアの人々とその伝統的な浄化の儀式がポルテーラのパレードを先導しサプカイを浄化する。

第1山車(アプリ・アーラ)「セニョール・ド・ボンフィン(良き終わりの主)に祈る許可を」

バイーアに到着したポルテーラが、守護神セニョール・ド・ボンフィンに祈る許可を求める。その名を冠した教会は、多くのバイーア女性が香水と祝祭で階段を清める、ラバージェン・ド・ボンフィン(ボンフィンの清め)の儀式の舞台である。

デスタッキ ヴァウ・カルヴァーリヨ「ポルテーラの聖なるパトウア(護符)」

デスタッキ カルロス・ヘイス「セニョール・ド・ボンフィンがポルテーラの行く道を照らす」

搭乗員「祝祭に香辛料を」

搭乗員「洗われるがままに」

搭乗員「ああ、バイアーナ」

搭乗員「バイーアのエネルギー」

第4アーラ「我が街の祝祭のただなかにある魂」

オシャラー神と融合したセニョール・ド・ボンフィンは、バイーアで最も多くの信徒を集める神である。

第3部 「海の祝祭——水の中に生きる力」

第5アーラ「私が女王に贈ったもの」

漁師ほか、信心深い人々が、海の女王への捧げものと花をもち、海の様式で祝う。その他にも海に関係するいくつかの儀式を表現する。

第6アーラ「水の中に生きる力」

イエマンジャを奉る、ブラジル最大の伝統的な祝祭は毎年2月2日にヴェルメーリョ川のほとりで行われる。

第7アーラ(バイアーナス)「我が人魚は海の女王」

イエマンジャ、イエマンジャ、イエマヤ、イエマンジャ、イエモジャ、イエモンジャ。呼び名にバリエーションがあるこの女神は、アフリカ起源のオリシャー神の一柱であり、その名前は、ヨルバ語の「イエイエ・オモ・エジャ(魚である子らをもつ母)」が変化したものだという。

第2山車「海の女王への祈りの手順」

2月2日に行われるイエマンジャの祭りは、年間を通じて最も人気のあるもので、信者や見物人でヴェルメーリョ川のほとりが大賑わいとなる。

デスタッキ(中央下) スエレン・ピント「イエモジャ」

デスタッキ(横上) ヴァラッス・パエス「イエマンジャへの祈り」

デスタッキ(横上) リンダウヴァ「イエマンジャへの祈り」

搭乗員「水棲生物」

搭乗員「私は網を引く」

第4部 「アフリカ起源の祝祭——黒人が偉大さを示す」

第8アーラ「年寄りを見かけたなら、ほら、祝福を希え、、、」

1月27日の聖ラザロの祭りとは8月16日の聖ホッキの祭り。これら聖人はそれぞれ、オムル、オバルアイエというオリシャー神と融合している。

第9アーラ「高みから聞こえる黒人の歌声」

サント・アマーロ・ダ・プリフィカサオンでは、「ネグロ・フジード(逃亡した黒人)」という名の祭りが、1世紀以上続いて行われている。

第10アーラ「市場前広場で、黒人たちは祝う」

サント・アマーロおよびヘコンカヴォ・バイアーノでは、5月13日は奴隷解放の日として祝われている。

第11アーラ「聖なる女戦士、それを称え奉らん」

聖バルバラに捧げる儀式は、ノッサ・セニョーラ・ドホザーリオ・ドス・プレッス(黒人のロザリオの聖母)教会および旧市街中心部まで続く行進で行われる。聖バルバラは、カンドンプレではイアンサンにあたり、12月4日に祝われる。

メストリ・サーラとポルタ・バンデイラ(第2ペア)の随員「アバエテの近くに、明敏な黒人がいる」

バイアーノの奴隷だったイスラム教徒の黒人が放棄した歴史的事件、マレースの反乱を記念した祭

り。

メストリ・サーラとポルタ・バンデイラ(第2ペア)

ジェフェルソンとカチア・パス

「アラーへの祈り」

マレースと呼ばれたイスラム教徒のアフリカ人たちは、抑圧された黒人を開放すべく戦い、今日にいたるまで、サルバドールでの祭りの対象となっている。

第12 アーラ(バイアーナス)「女たちは歌いながら韻文詩を作り出す」

ボア・モルチ(良き死)の祭りは、1920年に始まった、カトリックとカンドンブレの要素を混合したものである。

デスタッキ・ヂ・シャオン ヴァニア・ラブ 「我こそは汝らに嵐をもたらす空」

第3 山車 「我こそは雷光と風の家」

市場の守護聖人、消防士の守り神でもある聖バルバラは、雷光と嵐のオリシャー神イアンサンと同一視されている。

デスタッキ(中央) ホドリゴ・アンドラーヂ 「我こそはイアンサンの風」

デスタッキ(中央中段) ニウ・ティイエモンジャ 「風のカ」

デスタッキ(横) ファビオ・リマ 「戦った者がとった武器」

デスタッキ(横) イングリッチ・マホーニ 「大地のカ」

搭乗員 我々にとってのオヤー(イアンサン)

搭乗員 オヤー(イアンサン)の女戦士

搭乗員 オヤー(イアンサン)の男戦士

第5部 「カーニバル——この街の歌は私のもの」

第13 アーラ 「バトゥーキの音の間に、若者は踊る」

バイーア州マラゴジッピ市のカーニバルは、19世紀のヨーロッパの祝祭の影響を受けて発展したもので、バイーア州の無形文化財に指定されている。

第14 アーラ(パシスタス)「イレ・アイェー、お前がここを通るのを見たい」

イレ・アイェーはブラジルにおける最初のアフロ・ブロッコとして、アフリカ系住民の評価向上と抱合のために戦った、バイーアの文化遺産である。

ハイニャ・ダ・パテリア シェロン・メネッゼス 「オシャラー神の心——超常的な力と光」

アフォシェー(アフロ・ブラジル系カーニバルチーム)のひとつ「フィーリョス・ヂ・ガンジー(ガンジーの息子たち)」はオシャラーを奉りつつ、非暴力・平和を理想として掲げた。

第 15 アーラ(バテリア)「かのフィーリョス・ヂ・ガンジーのターバン」

ポルテーラのバテリアは、フィーリョス・ヂ・ガンジーの扮装で、バイーア最大のアフォシェーで、男性だけで構成され、平和原則を掲げている同チームを称える。

第 16 アーラ 「フィーリョ・ヂ・ガンジーのターバンの中身」

アフォシェーのフィーリョス・ヂ・ガンジーは、カーニバルにおける「白の海」として知られる。若い参加者たちは、口づけと引き換えに首飾りを提供する。

第 17 アーラ 「道をあけて、オロドゥンが来た」

アフロ系のカーニバル向けブロックとして設立されたオロドゥンは、アフロ・ブラジル風の打楽器グループとして世界的に知られるようになった。

第 4 山車 「街の歌声」

バイーアの人々にとって、カーニバルは祭りの中の祭りであり、トリオ・エレットリコを伴う正規の巡回パレードに従ってサルバドール中を動きまわる 200 万人以上の人々に喜びをもたらすものである。

DESTAQUE(中央・下) カシア・フィゲイレード 「部族の音」

DESTAQUE(中央・上) ダニエラ・メルクリ

搭乗員 「チンバウ奏者の演奏」

搭乗員 「チンバラダの部族」

搭乗員 「我こそはカーニバル」

第6部 「キリスト教の祝祭——何もかもが神々しく、素晴らしい！」

第 18 アーラ 「聖霊の祝祭で、少年のために私は歌った」

聖霊祭は 5 月 19 日に行われ、少年皇帝の戴冠が行われる。

第 19 アーラ(クリアンサス)「天使を信じて。だってボクが君の天使だし」

子供たちが聖フランシスコ教会の天使に扮して登場する。同教会の内装は金とジャカランダ(ブラジリアン・ローズウッド)で飾られ、アズレージョ(タイル)の青みが加えられている。

DESTAQUE・ヂ・シャオン シャイエーニ・セザーリオ 「王(賢者)たちの名の下での喧噪」

サルバドール近郊のラピーニャで行われる、三賢者(王)の祭りを表現。

第 20 アーラ 「この騒ぎは王のもの、この騒ぎは王のもの」

サルバドールの旧市街中心部の通りから、三賢者(王)にテルノ、ハンシヨ、パストール等のグループが続き、ラピーニャの教会に設けられたキリスト降誕場面まで練り歩く。

第 21 アーラ 「行くたびにより信仰心を深める」

信者たちはピラールの泉で眼を洗い、眼の守護聖人である聖ルジアの教会で行われる祝典に臨む。

第 22 アーラ 「ほら、向こうを行列が行く、、、」

聖週間前の日曜日の朝に行われるハモスの行列は、イエス・キリストのエルサレム到着を記念したカトリックの祭事である。

第 23 アーラ 「私は信仰心を胸に、歩いていく」

聖金曜日の午後、「主の死」の行列が行われる。そこでは、キリストの7歩の受難が再現される。

第 5 山車 「何もかもが神々しく、素晴らしい」

カトリックの祝祭を表現する。この山車の全体的な着想元は、バイーアの多くの祝祭の舞台となる、ペロウリーニョにある聖フランシスコ教会および同修道院である。

デスタッキ(中央) パトリシア 「神々しく素晴らしいもの」

デスタッキ(中央・中段) ヴァウヂール・クーニャ

デスタッキ(横・上) ネイヂ 「守護聖女」

デスタッキ(横・上) ジャンデルソン 「守護聖人」

搭乗員 「私の行くところ、信仰あり」

搭乗員 「天使」

搭乗員 「三賢者(王)」

第7部 「大衆的な祝祭——人々が備えていた、純粹で、独自のもの」

第 24 アーラ 「ボーイ(牛)のダンスを見て、、、」

ボーイ・ブンバの祭りは、バイーアのヘコンカボと呼ばれる一帯にある多くの街で、特にクリスマスの時期に、数多く開催される。

第 25 アーラ 「さあ行け、太鼓隊、オレも続くぞ」

「ゼンビアプンガ」は、パッチワークの衣装を着て、仮面を着けた男たちの行列で、死者の日(11月2日)の前夜に太鼓を叩きながら通りを練り歩く。

デスタッキ・チ・シャオン ミリアン・バヘットとキコ・アウヴェス 「バイーアではブラジルが自由だ」

バイーア最大の一般祝祭は、バイーア州独立記念祭である。

第26 アーラ 「7月2日に日は上る」

7月2日は「本来の」ブラジルの独立記念日だとして、山車を使ったパレードで祝われている。

第27 アーラ 「おいでなさい。カルルもあるし」

聖人の融合が現れるもう一つの祭り。教会でのミサに合わせて、カルル(オクラ料理)がふるまわれる。

第3 トリペー(三脚の小出車) 「自宅だと思ってくつろいでくれ、2、2」

芸術家フーベン・ヴァレンチンとロナウド・ヘーゴに着想を得て、この小出車では双子を表現したそっくりの人形を登場させる。

第29 アーラ 「君が揺れる様を見たい」

サンジョアン(聖ジョアオン)の祭りもまた、最も盛り上がるものの一つである。フォホーがいっぱいある。

第6 山車 「今日は聖ジョアオン生誕の日」

サンジョアン(聖ジョアオン)の祭りもまた、バイーア州が最も盛り上がる、バイーア州にとって最も重要なものの一つである。

デスタッキ(中央) アリーニ 「聖ジョアオン万歳！」

デスタッキ(中央) マルシーリア 「大衆の祝祭」

デスタッキ(横) ホブソン・アラメーダ 「アコーディオン奏者」

デスタッキ(横) ヴェリントン 「ヴィオラ(カイピーラ)奏者」

搭乗者 「フォホーに熱狂」

搭乗者 「フォホーのバンド」

搭乗者 「私のサンバ・チ・ホーダは奴隷小屋で生まれた」

搭乗者 「今日はカポエイラがある」

第8部 「サンバの祭壇」

第30 アーラ 「すべからく民衆の祭りである」

ポルテラは、バイーアの人々が祝祭に臨む心に共感し、自らも同じであると確認する。このアー

ラでは、1972年に黒人種を祝った「イル・アイエー」を表現する。

デスタッキ・ヂ・シャオン ドドー 「最新の装束に身を包んだ貴婦人」

1977年のカーニバル「就位式典」の祝祭における王族の姿。

第31アーラ(婦人)「人々は歌い、王は魅了される」

ジョアオン6世の即位を祝う祭り、その構成の全てが、1977年の「就位式典」では表現された。

メストリ・サーラとポルタ・バンデイラ(第3ペア)

チオーゴ・フランとジェアーニ・ポルテラ

「人生がペアダンスならば、民俗習慣がペアだ」

1982年のエンヘッド「私のブラジルのブラジル」で披露されたマラカトゥ。

第32アーラ「ヘイザード(王の治世)、ヘイノ(王国)、ヘイナード(君主制)」

1983年のエンヘッド「王冠の復活——ヘイザード(王の治世)、ヘイノ(王国)、ヘイナード(君主制)」で披露されたヘイザード(という名のダンス)。

第33アーラ「喜びの波に乗って」

1990年の「この大地は金と銀で出来ている」で披露されたブラジルの民俗習慣。

婦人部「ポルテラは空をつたう歌」

1984年の「砂の物語」で祝われた、クララ・ヌネスへの讃辞。

第34アーラ(作曲部+ヴィセンチーナ)「我が人民にサンバをさせる者」

ポルテラが、ナタウ、パウロ・ダ・ポルテラ、クララ・ヌネスを祝福し、バイーアへの憧れを歌った1984年のカーニバルを表現する。

デスタッキ・ヂ・シャオン ジュリアーナ・ヂニース 「ポルテラの護符」

モナルコの孫であるジュリアーナ・ヂニースが、ヴェーリャ・グワルダのショーを称える。

第7山車「カーニバルの祭壇に乗って、誇らしく進む」

セニョール・ド・ボンフィンがポルテラを祝福し、その宮殿に支持者を迎え入れる。鷹は、人々を魅了するカルナバレスコとしてのキャリアを終えて(亡くなって)20年となるヴィリアート・フェヘイラを称える。ヂッキ・ヂ・トロロー博物館に展示されたタッチ・モレーノの作品に描かれたオリシャーの神々の姿も表現される。

デスタッキ(中央) カルロス・ヒベイロ 「オシャラー」

デスタッキ(中央) ヴァネッサ・ダ・マタ 「クララ・ヌネス」

搭乗員 「鷹の警護員」

搭乗員 「砦」

搭乗員 「私は生まれながらのポルテーラ」

搭乗員 「鷹」

第 35 アーラ 「その旗の上に、聖なるマントを」

ポルテーラの熱狂的な支援者によって2003年に組織された、ゲヘイロス・ダ・アギア(鷹の戦士たち)は、サプカイの客席を占める応援団のさきがけである。